

令和7年度 こども園（保育園）関係者評価

園評価・評価委員最終評価シート

子育てセンターしばもと

こども園（保育園）関係者評価委員会による評価

対象評価： 最終評価

評価日時： 令和 8年 2月 13日 13:30 ~ 15:00

【こども園（保育園）関係者評価委員会構成】

学識委員 1名 地域委員 1名 保護者委員 2名

【園の教育・保育目標】

「思い合うこどもたち」～いっぱい愛されて～
1. 元気もりもり 2. 心きらきら 3. 遊びわくわく

【本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した
こども園（保育園）評価の具体的な目標や計画】

令和7年度 重点目標

自園の教育・保育活動がより充実するように職員間で学び合い質の向上に努めます。

【評価基準について】

- 4・・・十分に達成されていた
- 3・・・ほぼ達成されていた
- 2・・・取り組みは見られるが達成が十分ではない
- 1・・・取り組みが不十分であった

項目	園評価		評価委員最終評価	
	評価	評価理由	評価	評価理由（評価委員から）
I. 目標の理解 1. グランドデザインを理解している 2. グランドデザインを意識している 3. 重点目標を意識している 4. 重点目標を意識して取り組んでいる	4	・グランドデザインが常に目につくところにあり、確認することができる。また、職員が使っているダイアリーにも記載されているため、意識して取り組んでいる。 ・重点目標について、今年度は歌と活動グループに分かれて取り組み、定期的に話し合いや振り返りを行うことで教育・保育活動の充実を努め、指導計画の作成へと繋がった。また、お互いのグループの取り組み内容を共有することで、園全体で取り組んだ。	4	・グランドデザインは、共通理解して取り組める指針の一つになっていると思う。また、意識して経営ができていると思う。 ・保護者のアンケートを見ても満足という結果が表れているので十分できているのではないかと。 ・歌、活動の2つのグループに分かれて取り組み、職員間で遊びを伝承したり、学び合いに繋がっていると思うので継続して欲しい。
II. 教育・保育の計画性と内容 1. 指導計画の作成 2. 環境への配慮 3. 教育・保育活動の実践 4. 計画と実践の評価・反省	4	・年間計画、月案、週案、おたよりと継続的に計画、実行、反省が行なえている。子どもたちの興味や関心に合わせた計画が立てられるよう職員間の話し合いや週案会議等にて共有を行っている。また、今年度は職員が歌と活動グループに分かれ遊びの充実を図ったが、季節に応じた環境装飾や整理整頓がもう少しできると良かった。 ・園の畑で季節に応じた野菜を育て生長を楽しみ収穫しクッキングを行うことで、食に興味を持ち、食事を楽しめた。	4	・子どもたちが自主的にいきいきと遊んでいる姿をたくさん見ることができた。 ・季節の遊びや伝統行事等、家庭ではなかなか行うことが難しくなっているため、伝承していくことが園の役割になっていると思う。 ・やって終わりではなく、実行、反省を次に活かすというPDCAサイクルが大切である。課題が次の年度の活動に活かせると思うので、早めの計画、準備が大切だと思う。

<p>Ⅲ. 子どもにとっては</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. あなたらしさが認められる 2. 安心してすごせる生活 3. 自然に触れて心ゆくまで遊ぶ 4. いろいろな人の中で自分を知る 	<p>4</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちのつぶやきや気づきを遊びに取り入れ、お店屋さんごっこや水遊び等を全園児で楽しんだ。日々の生活の中で、異年齢児との関わりを大切に、憧れや思いやりの気持ちが育っていると感じる。 ・夏が長く、秋が短く四季を感じにくくなっているが、季節に応じた遊びを楽しむことができた。しかし、生命の尊さを感じる機会や体験を持つことが難しいと感じる。 ・子ども目線の活動を心掛けているが、長時間保育の子に対し十分に遊びこめる環境づくりの配慮が必要だと感じる。 	<p>4</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちのつぶやきから、活動を計画して行う等、子どものやってみたいという意思を尊重していると思った。 ・運動会を参観した際に、子どものペースを見守る様子が見られた。自分がやろうとしている気持ちを待ってもらえることが、子どもにとっては大きいと思う。 ・異年齢で大きい子が小さい子に教えたり、小さい子は大きい子の姿を見て真似したりする姿を見ることができた。自分を認めてもらう事で、小さい子に優しくできると思う。 ・先生たちが子どもの目線に立って、子どもに寄り添い、子どもたちの思いを大切にしていると思った。
<p>Ⅳ. 家族にとっては</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 気軽に話ができる 2. 教育・保育に参加できる 3. 必要な情報が得られる 4. 教育・保育を通して地域に親しむ 	<p>4</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者の方に安心して預けてもらえるよう気持ちのよい挨拶を心掛けたり、気軽に話しかけてもらえる雰囲気づくりに心掛けた。 ・保育参加では、日々の教育・保育を保護者の方に参加してもらい、面談では、園の様子を伝えたり、家庭での様子を聞き共有をした。また、懇談会では、保護者同士での子育て等に関する情報共有の時間も設けた。 ・園での活動の様子について、おたよりやブログ、掲示等で発信をしたが、回数や内容に偏りがあったため、定期的に発信できるとよいと感じた。 	<p>4</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園に子どもを預ける時や迎えに来た時に先生方の気持ちの良い挨拶が、仕事で疲れていても安心できた。担任の先生だけでなく、クラスの枠を超えて他のクラスの先生が子どもの様子を教えてくれて嬉しい気持ちになる。 ・園の先生が親身になってくれるので、自分の気持ちに余裕がない時でも親を優しく包んでくれる温かさがあるので、安心して子どもを預けられる。 ・保護者は聞いてもらえることが嬉しいことで、お母さんが園を好きになると子ども好きになる。園は、保護者と繋がることができるため、信頼関係を築くことができる。子どもの話題で共通のことを話すことができる。
<p>Ⅴ. 地域にとっては</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 誰でも親しく訪ねられる 2. 園の内容がよくわかる 3. 困った時に頼りになる 4. 子育てに夢がもてるように 	<p>4</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外の掲示板を活用し、園の教育・保育やひろばの取り組みを紹介した。地域の方も興味を持ち足を止めて見てくれていると感じる。 ・園に併設のひろばとして、行事や活動を園児とひろば利用親子と交流する機会を設けたが、園の職員とひろば職員との連携やお互いの活動内容の理解や共有が重要だと感じた。 ・学生ボランティアや実習生が多数来園し活動を行う中で、園を知ってもらう機会となった。また、ママボランティアや絵本の読み聞かせボランティアの方など継続的に来園してくれる方との交流を今後も大切にしていきたい。 	<p>4</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今は昔と違い、地域の方が自由に園内に立ち入ることが難しくなっている。地域の方と交流することで、お互い学び合うことができると思う。 ・園外の掲示板を利用し、園の取り組みを掲示し、園を知ってもらう機会に繋がっているとと思う。昨年度の課題が改善している点良かった。
<p>Ⅵ. 保育者にとっては</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 個性がいかされる 2. 快適な職場づくり 3. 生活や遊びの文化が伝えられる 4. 視野を広げて自ら学ぶ 	<p>4</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員の得意分野が教育・保育に活かせるよう、今年度は職員が歌と活動グループに分かれて取り組んだ。定期的に話し合いを行う中で、歌や手遊び、遊びのレパートリーを増やし、遊びの充実につながった。また、正月あそびやおせち料理等、伝統的な遊びや行事等を传承することができた。 ・園児も職員も過ごしやすい環境づくりのため、整理整頓、気配りや思いやりのある声掛け等を一人ひとりが意識していくことが大切だと思う。 	<p>4</p> <ul style="list-style-type: none"> ・秋のコンサートの歌の発表が印象的だった。全身を使って表現している子もいて、どの子も楽しそうに歌っていた。また、子どもが「先生とサッカーをして嬉しかった」と言っていた。先生たちの得意分野が活かされているのではないかと感じた。年齢層も様々でお互いに学ぶこともあり、話し合いをすることで距離が縮まるのではないかと感じる。 ・話し合いを行うことも大切だが、働き方改革と言われる時代なので、うまく融合させていけると良い。 ・若手を育成していくことが大切であり、若い先生の力を信じて任せることも大切だと思う。